

苫小牧市教育委員会・小学校 「令和8年度 苫小牧市統一学力検査」 考察資料

■ 調査目的

- ・ 苫小牧市内の小学校児童の学習状況を調査し、学習指導要領に定められた学習内容の定着状況を把握するとともに、今後の学力向上及び指導の改善に資する。

■ 調査内容

- ・ 調査目的に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本及び活用の力を測る問題で構成した。

■ 調査対象

- ・ 苫小牧市内の公立小学校4・5・6年生の児童
- ・ 調査対象教科は、国語・算数

■ 調査結果

【小学校の調査結果】

		苫小牧市全体 正答率 (%)	全国正答率 (%)	全国との差
小学校 4年生	国語	66.3	70.3	▲ 4.0
	算数	67.4	72.1	▲ 4.7
小学校 5年生	国語	63.3	66.2	▲ 2.9
	算数	53.5	61.6	▲ 8.1
小学校 6年生	国語	59.0	61.4	▲ 2.4
	算数	58.1	65.1	▲ 7.0

■小学校4年生 国語

※標準スコア…全国平均を50とした値

(1) 基礎・活用別正答率

	全体	基礎	活用
苫小牧市全体正答率(%)	66.3	70.8	56.6
全国正答率(%)	70.3	74.6	61.2
全国との差	▲ 4.0	▲ 3.8	▲ 4.6
苫小牧市標準スコア(今年度)	48.2	48.2	48.4

(2) 領域別正答率

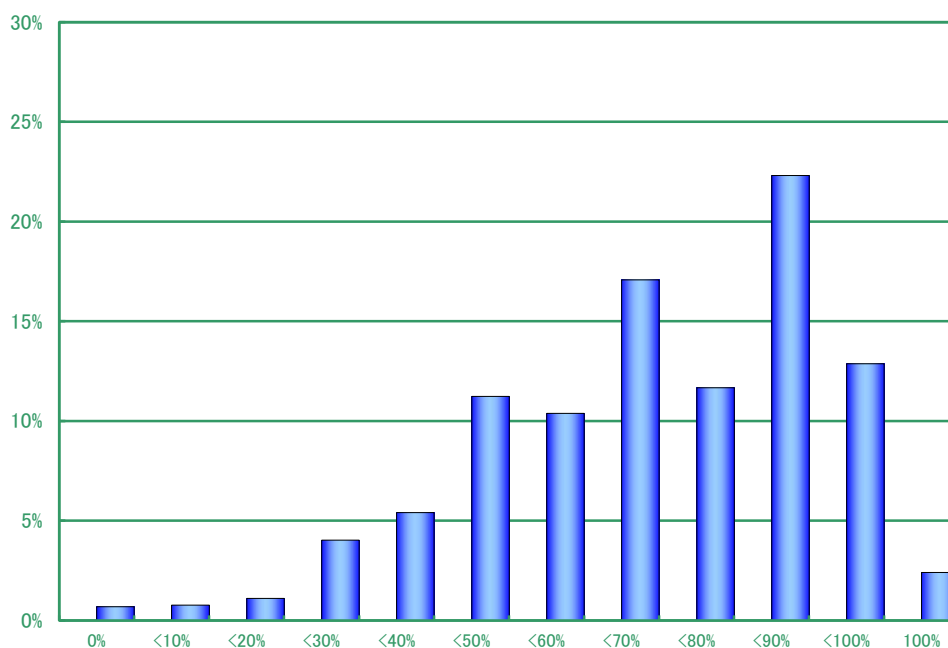
	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
苫小牧市全体正答率(%)	76.8	55.9	70.9	77.5	50.6	63.3
全国正答率(%)	78.7	60.7	75.8	82.9	56.2	67.5
全国との差	▲ 1.9	▲ 4.8	▲ 4.9	▲ 5.4	▲ 5.6	▲ 4.2
苫小牧市標準スコア(今年度)	49.1	49.0	48.9	48.0	48.4	48.6

(3) 観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
苫小牧市全体正答率(%)	74.1	61.1
全国正答率(%)	76.6	66.1
全国との差	▲ 2.5	▲ 5.0
苫小牧市標準スコア(今年度)	48.8	48.0

(4) 正答率度数分布

★正答率度数分布



■小学校4年生 算数

※標準スコア…全国平均を50とした値

(1) 基礎・活用別正答率

	全体	基礎	活用
苫小牧市全体正答率(%)	67.4	71.2	55.6
全国正答率(%)	72.1	75.8	60.4
全国との差	▲ 4.7	▲ 4.6	▲ 4.8
苫小牧市標準スコア(今年度)	47.7	47.7	48.2

(2) 領域別正答率

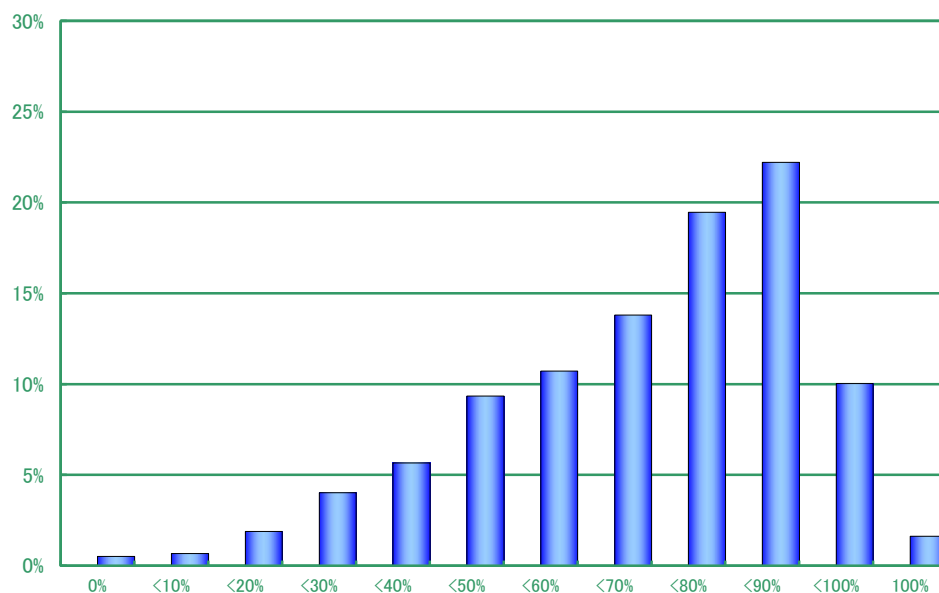
	数と計算	図形	測定	データの活用
苫小牧市全体正答率(%)	66.2	58.7	76.4	64.4
全国正答率(%)	71.5	60.9	80.1	70.0
全国との差	▲ 5.3	▲ 2.2	▲ 3.7	▲ 5.6
苫小牧市標準スコア(今年度)	47.5	49.2	48.6	48.2

(3) 観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
苫小牧市全体正答率(%)	71.7	54.0
全国正答率(%)	76.3	58.8
全国との差	▲ 4.6	▲ 4.8
苫小牧市標準スコア(今年度)	47.7	48.3

(4) 正答率度数分布

★正答率度数分布



■小学校5年生 国語

※標準スコア…全国平均を50とした値

(1) 基礎・活用別正答率

	全体	基礎	活用
苫小牧市全体正答率(%)	63.3	68.1	52.6
全国正答率(%)	66.2	70.3	56.9
全国との差	▲2.9	▲2.2	▲4.3
苫小牧市標準スコア(今年度)	48.6	48.9	48.4

(2) 領域別正答率

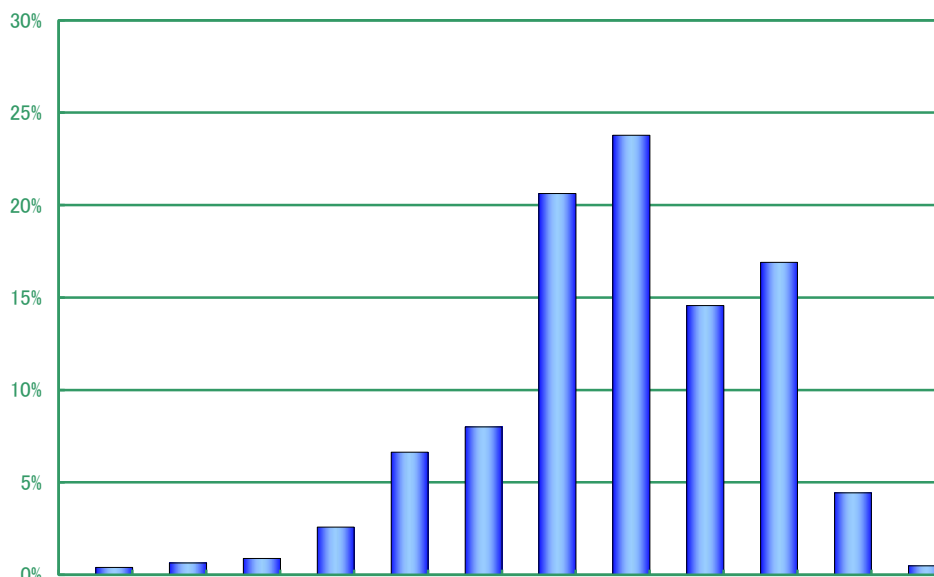
	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
苫小牧市全体正答率(%)	72.2	62.9	80.7	61.4	52.0	56.3
全国正答率(%)	73.1	66.5	81.7	63.2	61.0	59.0
全国との差	▲0.9	▲3.6	▲1.0	▲1.8	▲9.0	▲2.7
苫小牧市標準スコア(今年度)	49.5	49.2	49.8	49.3	47.8	49.0

(3) 観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
苫小牧市全体正答率(%)	72.1	56.9
全国正答率(%)	73.3	60.9
全国との差	▲1.2	▲4.0
苫小牧市標準スコア(今年度)	49.4	48.3

(4) 正答率度数分布

★正答率度数分布



■小学校5年生 算数

※標準スコア…全国平均を50とした値

(1) 基礎・活用別正答率

	全体	基礎	活用
苫小牧市全体正答率(%)	53.5	56.1	48.2
全国正答率(%)	61.6	64.4	56.0
全国との差	▲ 8.1	▲ 8.3	▲ 7.8
苫小牧市標準スコア(今年度)	46.3	46.3	46.8

(2) 領域別正答率

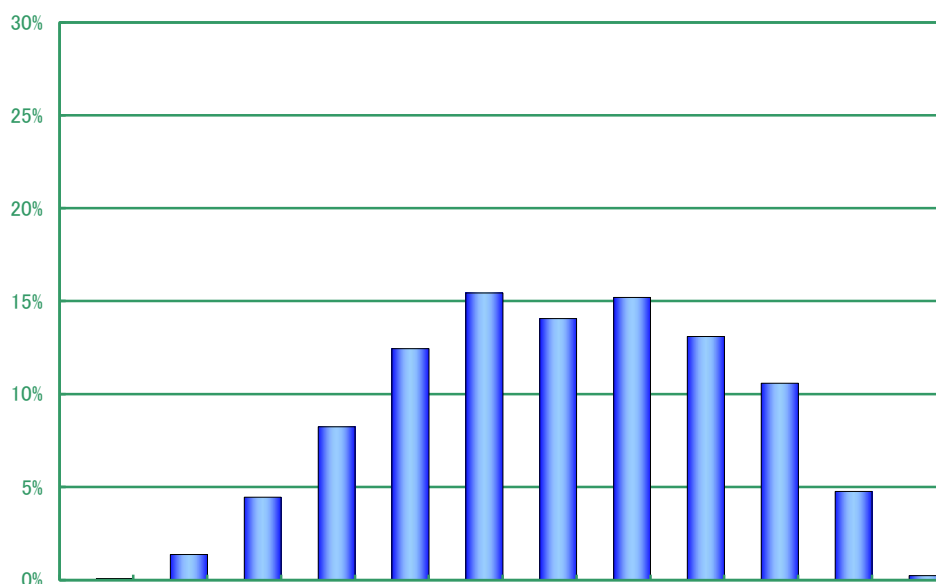
	数と計算	図形	変化と関係	データの活用
苫小牧市全体正答率(%)	53.6	55.1	56.2	45.6
全国正答率(%)	62.6	61.3	67.7	52.9
全国との差	▲ 9.0	▲ 6.2	▲ 11.5	▲ 7.3
苫小牧市標準スコア(今年度)	46.2	47.4	46.2	47.3

(3) 観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
苫小牧市全体正答率(%)	58.7	39.2
全国正答率(%)	67.0	46.8
全国との差	▲ 8.3	▲ 7.6
苫小牧市標準スコア(今年度)	46.2	47.1

(4) 正答率度数分布

★正答率度数分布



■小学校6年生 国語

※標準スコア…全国平均を50とした値

(1) 基礎・活用別正答率

	全体	基礎	活用
苫小牧市全体正答率(%)	59.0	64.6	46.4
全国正答率(%)	61.4	66.3	50.5
全国との差	▲2.4	▲1.7	▲4.1
苫小牧市標準スコア(今年度)	48.9	49.2	48.5

(2) 領域別正答率

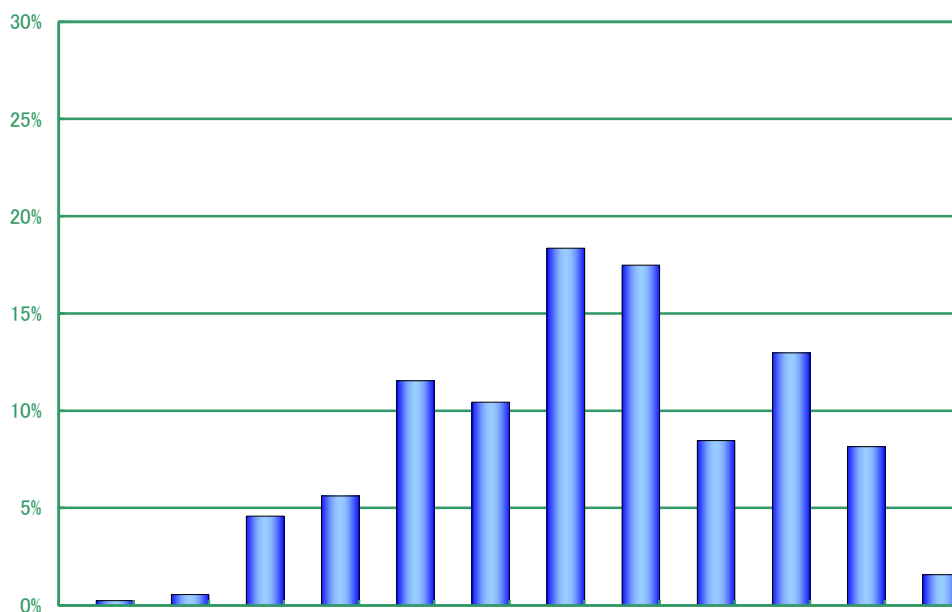
	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
苫小牧市全体正答率(%)	65.7	72.8	51.2	69.9	43.6	60.2
全国正答率(%)	66.4	72.6	49.4	70.2	52.4	61.5
全国との差	▲0.7	0.2	1.8	▲0.3	▲8.8	▲1.3
苫小牧市標準スコア(今年度)	49.7	50.0	50.5	49.9	47.4	49.6

(3) 観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
苫小牧市全体正答率(%)	63.7	55.5
全国正答率(%)	63.9	59.6
全国との差	▲0.2	▲4.1
苫小牧市標準スコア(今年度)	49.9	48.4

(4) 正答率度数分布

★正答率度数分布



■小学校6年生 算数

※標準スコア…全国平均を50とした値

(1) 基礎・活用別正答率

	全体	基礎	活用
苫小牧市全体正答率(%)	58.1	62.5	46.1
全国正答率(%)	65.1	69.5	53.2
全国との差	▲ 7.0	▲ 7.0	▲ 7.1
苫小牧市標準スコア(今年度)	47.0	47.0	47.4

(2) 領域別正答率

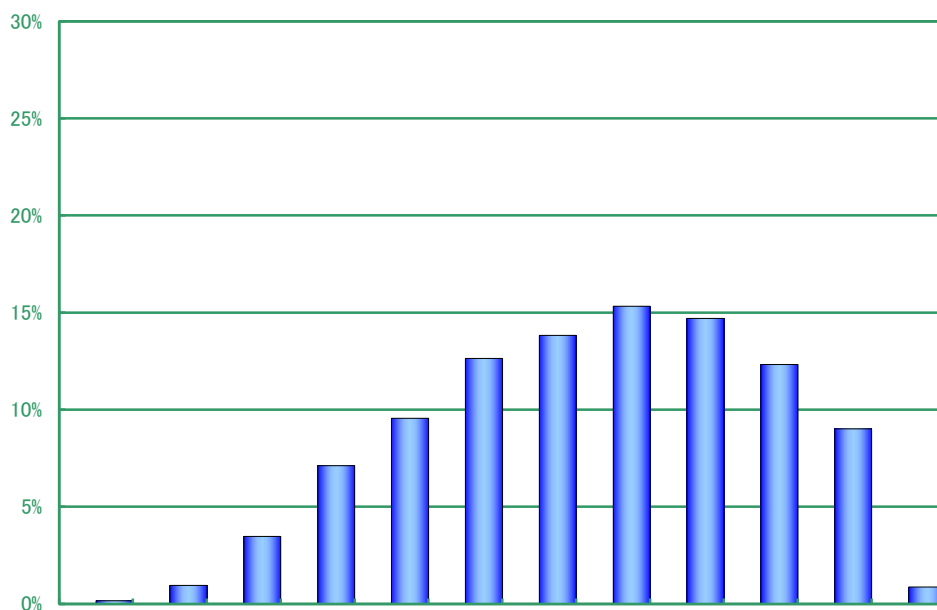
	数と計算	図形	変化と関係	データの活用
苫小牧市全体正答率(%)	54.5	69.7	63.6	41.0
全国正答率(%)	62.7	75.3	70.0	48.4
全国との差	▲ 8.2	▲ 5.6	▲ 6.4	▲ 7.4
苫小牧市標準スコア(今年度)	46.9	47.9	47.6	47.5

(3) 観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
苫小牧市全体正答率(%)	63.3	49.1
全国正答率(%)	70.4	56.1
全国との差	▲ 7.1	▲ 7.0
苫小牧市標準スコア(今年度)	47.1	47.2

(4) 正答率度数分布

★正答率度数分布



苫小牧市教育委員会・中学校 「令和8年度 苫小牧市統一学力検査」 考察資料

■ 調査目的

- ・ 苫小牧市内の中学校生徒の学習状況を調査し、学習指導要領に定められた学習内容の定着状況を把握するとともに、今後の学力向上及び指導の改善に資する。

■ 調査内容

- ・ 調査目的に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本及び活用の力を測る問題で構成した。

■ 調査対象

- ・ 苫小牧市内の公立中学校1・2年生の生徒
- ・ 調査対象教科は、国語・数学

■ 調査結果

【中学校の調査結果】

		苫小牧市全体 正答率 (%)	全国正答率 (%)	全国との差
中学校 1年生	国語	60.4	62.7	▲ 2.3
	数学	63.0	64.8	▲ 1.8
中学校 2年生	国語	59.3	60.7	▲ 1.4
	数学	56.4	57.2	▲ 0.8

■中学校1年生 国語

※標準スコア…全国平均を50とした値

(1) 基礎・活用別正答率

	全体	基礎	活用
苫小牧市全体正答率(%)	60.4	66.9	46.7
全国正答率(%)	62.7	68.7	50.1
全国との差	▲2.3	▲1.8	▲3.4
苫小牧市標準スコア(今年度)	48.9	49.1	48.8

(2) 領域別正答率

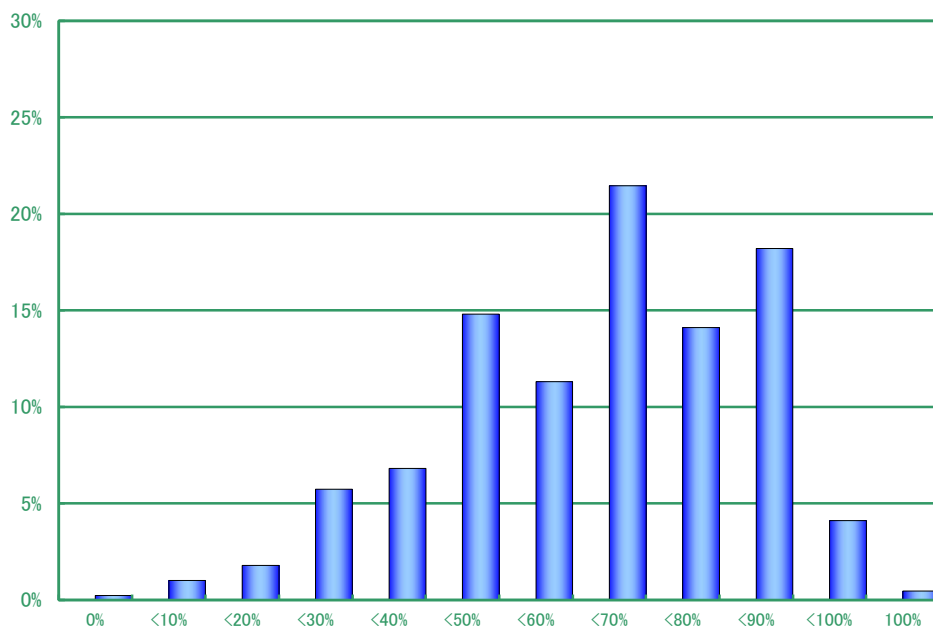
	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
苫小牧市全体正答率(%)	67.0	76.1	83.8	68.5	43.5	58.1
全国正答率(%)	68.1	75.3	84.8	66.7	51.7	58.7
全国との差	▲1.1	0.8	▲1.0	1.8	▲8.2	▲0.6
苫小牧市標準スコア(今年度)	49.5	50.2	49.7	50.6	47.6	49.7

(3) 観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
苫小牧市全体正答率(%)	69.6	54.4
全国正答率(%)	70.5	57.5
全国との差	▲0.9	▲3.1
苫小牧市標準スコア(今年度)	49.5	48.7

(4) 正答率度数分布

★正答率度数分布



■中学校1年生 数学

※標準スコア…全国平均を50とした値

(1) 基礎・活用別正答率

	全体	基礎	活用
苫小牧市全体正答率(%)	63.0	64.2	58.6
全国正答率(%)	64.8	65.7	61.6
全国との差	▲1.8	▲1.5	▲3.0
苫小牧市標準スコア(今年度)	49.2	49.3	48.9

(2) 領域別正答率

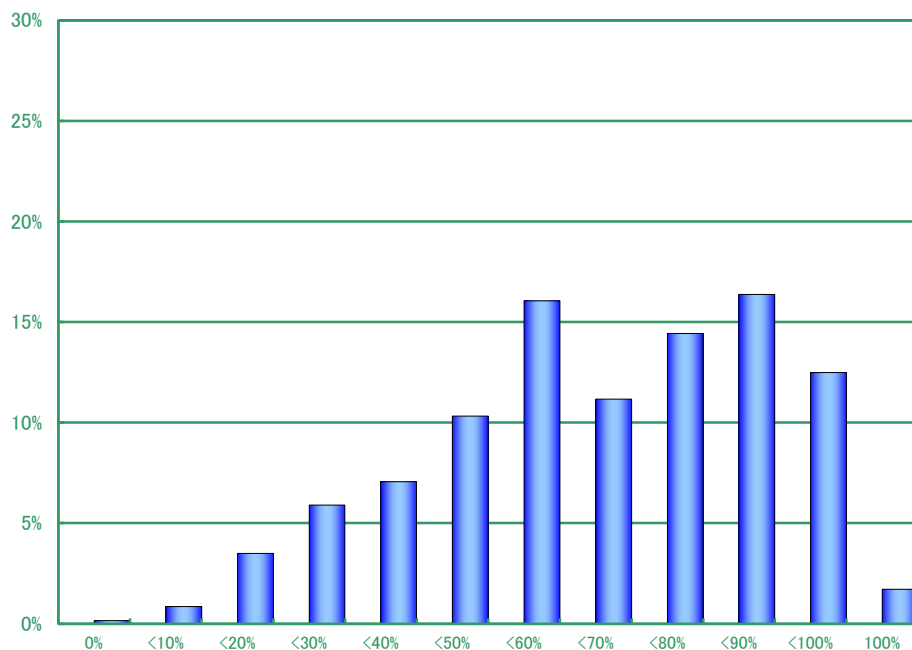
	数と計算	図形	変化と関係	データの活用
苫小牧市全体正答率(%)	75.1	63.3	51.9	61.5
全国正答率(%)	75.9	64.7	54.8	63.4
全国との差	▲0.8	▲1.4	▲2.9	▲1.9
苫小牧市標準スコア(今年度)	49.7	49.5	48.9	49.3

(3) 観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
苫小牧市全体正答率(%)	65.3	58.0
全国正答率(%)	66.5	61.1
全国との差	▲1.2	▲3.1
苫小牧市標準スコア(今年度)	49.5	48.8

(4) 正答率度数分布

★正答率度数分布



■中学校2年生 国語

※標準スコア…全国平均を50とした値

(1) 基礎・活用別正答率

	全体	基礎	活用
苫小牧市全体正答率(%)	59.3	64.3	48.6
全国正答率(%)	60.7	64.6	52.2
全国との差	▲ 1.4	▲ 0.3	▲ 3.6
苫小牧市標準スコア(今年度)	49.4	49.9	48.7

(2) 領域別正答率

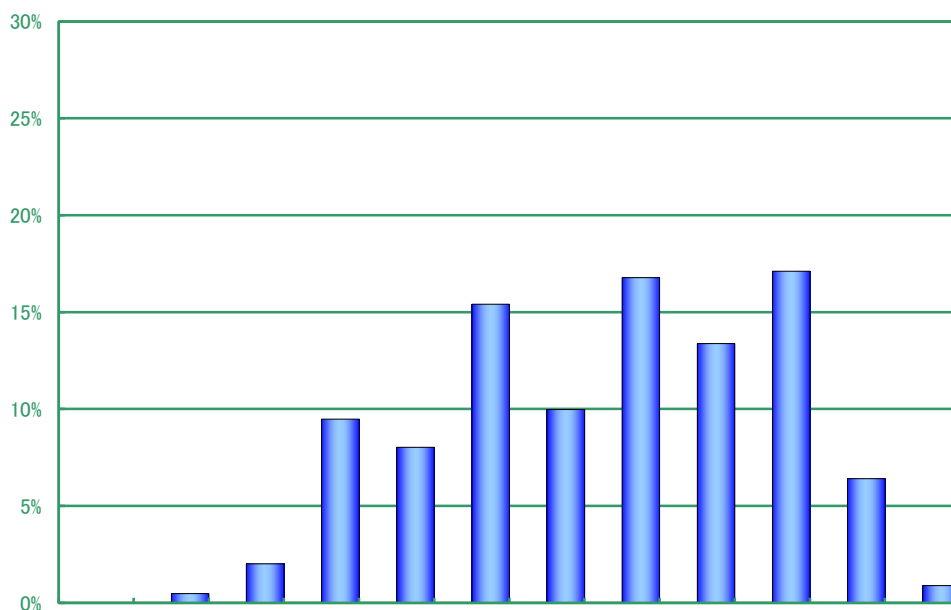
	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
苫小牧市全体正答率(%)	64.9	61.6	45.0	62.1	47.9	63.8
全国正答率(%)	64.4	60.3	40.5	62.3	56.4	62.6
全国との差	0.5	1.3	4.5	▲ 0.2	▲ 8.5	1.2
苫小牧市標準スコア(今年度)	50.2	50.3	50.9	49.9	47.5	50.4

(3) 観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
苫小牧市全体正答率(%)	62.6	57.1
全国正答率(%)	61.6	60.1
全国との差	1.0	▲ 3.0
苫小牧市標準スコア(今年度)	50.4	48.8

(4) 正答率度数分布

★正答率度数分布



■中学校2年生 数学

※標準スコア…全国平均を50とした値

(1) 基礎・活用別正答率

	全体	基礎	活用
苫小牧市全体正答率(%)	56.4	60.7	42.4
全国正答率(%)	57.2	61.1	44.5
全国との差	▲ 0.8	▲ 0.4	▲ 2.1
苫小牧市標準スコア(今年度)	49.7	49.8	49.2

(2) 領域別正答率

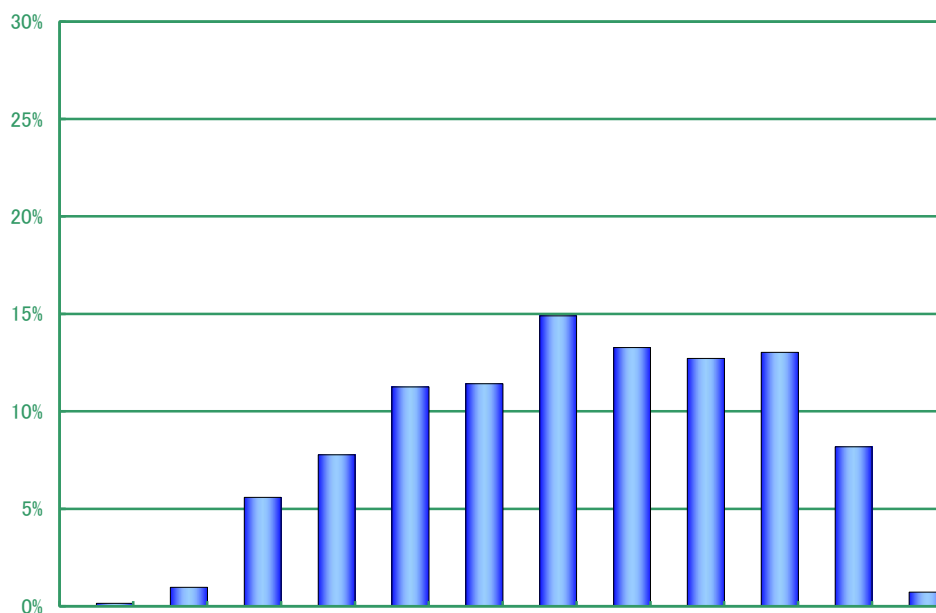
	数と式	図形	関数	データの活用
苫小牧市全体正答率(%)	63.5	58.7	47.7	48.5
全国正答率(%)	64.6	59.0	49.0	49.2
全国との差	▲ 1.1	▲ 0.3	▲ 1.3	▲ 0.7
苫小牧市標準スコア(今年度)	49.6	49.9	49.6	49.8

(3) 観点別正答率

	知識・技能	思考・判断・表現
苫小牧市全体正答率(%)	59.1	49.2
全国正答率(%)	59.4	51.4
全国との差	▲ 0.3	▲ 2.2
苫小牧市標準スコア(今年度)	49.9	49.1

(4) 正答率度数分布

★正答率度数分布



苫小牧市教育委員会

「令和8年度 苫小牧市統一学力検査」 の結果を踏まえた学力向上に向けた取組

本検査では、小学4年生から中学2年生の国語科及び算数・数学科において、全国平均を下回る結果となりました。国語科では、特に「書くこと」、算数・数学科では、特に小学校の「数と計算」に関する内容の定着が不十分であることがわかりました。また、観点別でみると、「思考・判断・表現」の定着に課題があることがわかりました。

子どもたちが授業で学習した内容をしっかりと習得し、次の学習に進むことが大切です。そのために、本資料においては、今求められている資質・能力をはじめ、家庭と学校の両輪で子どもたちの学びを支えていけるよう、次ページ以降にその視点をまとめました。

家庭と学校がそれぞれの役割を果たしながら、子どもたちの確かな学びにつなげていくための参考資料としてご活用ください。

《掲載内容》

p 14

結果概要

- ・ 成果と課題

p 15、16

家庭で取り組んでみましょう

- ・ 国語編
- ・ 算数・数学編

p 17、18

学校で取り組んでみましょう

- ・ 苫小牧市授業改善策_共通取組場面
- ・ 指導と評価の一体化



結果概要



■ 目標値との比較 (+ 、-3.0以下 、-6.0以下)

【国語】		小学4年	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年
領域	話すこと・聞くこと	-4.2	+0.4	+1.6	+3.5	-1.2
	書くこと	-6.1	-8.0	-7.2	-7.3	-7.1
観点	知識・技能	-0.4	-0.6	-1.8	+0.1	+2.6
	思考・判断・表現	-4.6	-2.8	-2.5	-2.3	-1.6
基礎		-3.3	-1.3	-1.5	-0.5	+1.7
活用		-2.2	-3.0	-3.6	-3.3	-3.3
教科全体		-2.9	-1.9	-2.2	-1.4	+0.1

【算数・数学】		小学4年	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年
領域	数と計算 (中2_数と式)	-5.2	-8.5	-6.4	-0.5	-2.0
観点	知識・技能	-3.8	-8.3	-5.9	-0.6	-0.2
	思考・判断・表現	-6.0	-9.6	-5.0	-0.5	-2.1
基礎		-3.8	-8.4	-4.8	-0.6	+0.5
活用		-5.8	-9.3	-7.7	-0.7	-4.7
教科全体		-4.3	-8.7	-5.6	-0.6	-0.8

《 成 果 》

【国語】

- 「話すこと・聞くこと」では、複数の学年で目標値と同等かそれ以上の成果がみられ、相手の話の内容をとらえたり、自分の考えを伝えたりする力が身に付いていることがうかがえます。
- 「知識・技能」では、言葉の意味や使い方、漢字などの基礎的な力が身に付いていることがうかがえます。

【算数・数学】

- 中学校では教科全体で概ね目標値と同等かそれ以上の結果となり、基礎的な知識・技能の定着が見られます。



《 課 題 》

【国語】

- 「書くこと」では、全学年で目標値を6ポイント以上下回っており、重点的な改善が必要です。
- 条件に合わせて文章を書くことや、自分の考えや理由を整理して、相手にわかりやすい文章で表現する力に改善が必要です。

【算数・数学】

- 小学校の「数と計算」では、目標値を5ポイント以上下回りました。基礎的な計算技能や数の概念の理解について、さらなる定着が必要です。

両教科に共通して、「思考・判断・表現」の観点や「活用」に課題が見られ、学んだ知識を活用して考えたり、理由や根拠をもとに説明したりする力を育てていく必要があります。学校や家庭生活において、自分の考えを説明したり、他者の考えと比較したりする活動をより充実させる必要があると考えられます。



国語科において課題がみられた問題⇒ズバリ「条件付きの作文」！！

例 条件①：〇行～〇行で書く

条件②：2段落に分けて書く

条件③：小学校…段落ごとに、自分の考えやそれを支える理由を明確にして書く

中学校…段落ごとに、集めた情報を整理し表現の効果を考えて書く など

※複数の条件を満たした上で、作文することを苦手としている傾向が見られます。

「書く力」はどうして必要なのでしょう？

子どもたちは大人になってからも、レポートや企画書、スピーチ原稿の作成など、自分の考えをまとめることによってアウトプットする場面は多岐にわたります。「書く力」を高めていくことは、子どもたちの人生を豊かにすることにつながります。

新とまごまい学びの3か条

をもとに家庭でできる取組は？

1

整った生活習慣が学びの土台



◎今日の出来事や読書後の感想を話しあってみましょう

⇒「何があったか」、「どんな気持ちだったか」、「なぜそう思ったか」を言葉にすることで、考えを形成する力が育ちます。「どの部分に共感したか」など問いかけてあげることで、思考を整理する力が育ちます。また、読書を通じて様々な文化や考えに触れる機会を設けてみましょう。

2

継続的な学習習慣が学びの基本



◎日記や読書の感想文を書いてみましょう

⇒小学生段階では1行日記でも、50字程度の短い文章でも構いません。少しずつ書く経験を積み上げていきましょう。「もっと伝わりやすくするにはどうしたらよいかな」と対話しながら見直すことで、推敲する力も育ちます。

◎買い物や旅行などの計画を立ててみましょう

⇒必要な情報を集めたり、比べたりする経験は、文章を書く際の情報整理や考えの構成につながります。日常生活の中で、このような機会を大切にしましょう。

3

子どもの自己決定が学びを向上

◎興味や関心にもとづいて、学びを進めていきましょう

⇒お子さんは、学校でたくさんの「書く活動」に取り組みます。報告文、物語、観察レポート、詩や短歌など、学校での学びと結びつけながら、家庭でも自ら書く内容を選べるようにサポートしてあげましょう。

課題の解決に向けて

家庭で取り組んでみましょう_算数・数学編



算数・数学科において課題がみられた問題⇒ズバリ「基礎的な計算」！！

- ・ $4\text{けた} - 3\text{けた} = 4\text{けた}$ （繰り下がりあり）の計算
- ・ 小数第二位÷整数＝小数第二位 の計算
- ・ 小数第二位÷小数第一位＝小数第二位 の計算

※小数のほか、概数や式の表し方について苦手としている傾向がみられます。

「数と計算」はどうして必要なのでしょう？

「数と計算」の力は、買い物や料理、時間の計算など、日常生活の様々な場面で活用されます。また、論理的に考えたり、課題を解決したりするための基礎となる大切な力です。

新とまごまい学びの3か条

をもとに家庭でできる取組は？

1 整った生活習慣が学びの土台



◎予定を立てたり、時間を意識したりする習慣をつけましょう

⇒「夕食まであと何分ある？」「到着まで20分かかるから何時に出発する？」など、日常生活の中で繰り返し考える場面を設定することで、数や時間を意識する力を育みましょう。

2 継続的な学習習慣が学びの基本



◎復習に取り組みましょう。

⇒基礎的な計算の習得には、繰り返しの学習が必要です。「わかった、できた」ことを、「使えた」と感じられるようになるまで、繰り返し取り組むことが大切です。

◎料理や買い物など日常の場面で計算してみましょう

⇒買い物や料理では、数や計算を使う場面がたくさんあります。「全部でいくらになる？」「2割引きだとどのくらい？」「2人分を3人分にすると材料は？」など、考えるきっかけを作ってあげることが大切です。こうした経験は、数の感覚や計算する力を育てることにもつながります。

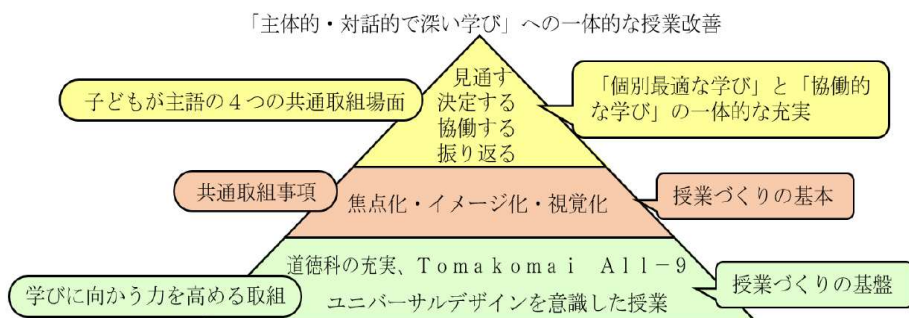
3 子どもの自己決定が学びを向上

◎取り組む内容を、自分で決めることを意識しましょう。

⇒自分の理解度に応じた問題を自分で選択して取り組んでいくことが大切です。お子さんの「やってみたい、できるようになりたい」気持ちを尊重し、自分で学ぶ内容を選べるように見守りましょう。



「苫小牧市授業改善策—共通取組場面—」について、再確認！！



児童生徒の資質・能力を育成するために必要な3つのポイントを、授業改善策として位置付けています

イメージ図

◎ポイントは、単元全体を通して共通取組場면을位置付けること

STEP1 単元の目標及び評価基準の設定

ハンドブック（グリーン版）も確認！⇒

STEP2 学びを委ねる内容の設定

教える内容と委ねる内容を明確にしましょう。児童生徒が見出せる内容や自分の力で学習できる内容は積極的に委ねるように設定します。教える内容とのバランスがポイントです。

STEP3 共通取組場面の位置付け

見通す

決定する

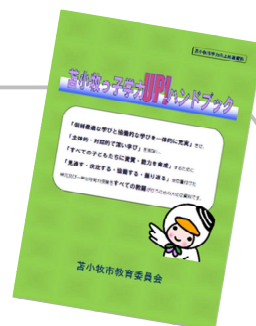
協働する

振り返る

児童生徒が、主体的に学ぶことができるように共通取組場면을適切に位置付けましょう。場面設定の際は、効果や意図を明確にすることがポイントです。毎時間全ての場면을位置付けることが目的にならないよう留意しましょう。

STEP4 支援の手立てと評価の場面の設定

教師は学びの伴走者として支援しながら、児童生徒の学習状況の把握や評価を進めましょう。



◎今後に向けて

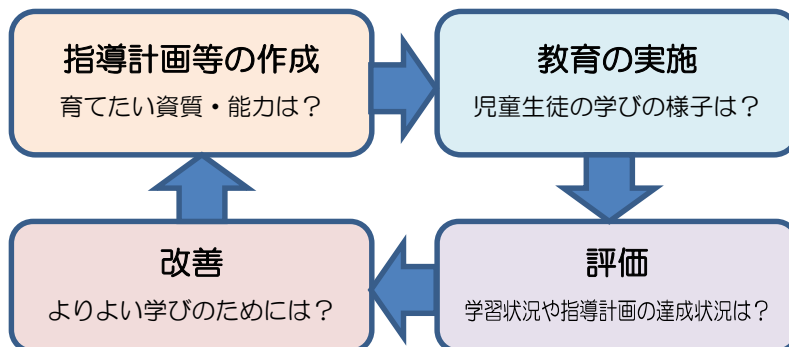
本検査においては、国語科、算数・数学科の課題が明らかとなりましたが、当該教科の学びのみならず各教科の学びの充実が児童生徒の資質・能力の育成に欠かせません。本市の授業改善策が、各教科の学びにおいてさらなる活用が図られるよう、各学校での授業改善の推進に期待しています。





「指導と評価の一体化」について、再確認！！

1. 指導と評価の一体化とは
子どもの学習状況を評価し、
その結果を次の指導に生かし、
学びをよりよくしていくこと



2. 評価の際の3つのポイント

(1) 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと

⇒主体的・対話的で深い学びになっていたか 等

(2) 教師の指導改善につながるものにしていくこと

⇒子どものつまずき、目標達成に向けた活動や場面の設定が妥当だったか 等

(3) これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

⇒教えることと委ねることのバランス、効果的なタイムマネジメント 等

3. より効果を高める手立ては児童生徒との共有



学習評価の方針を事前に児童
生徒と共有する場面を必要に
応じて設ける

評価結果をフィードバックす
る際、どのような方針で評価
したのかを改めて共有する



児童生徒が「何ができればよい
のか」をイメージすることで、学
習の見通しをもつことができる

評価の結果等について知る
ことで、児童生徒が次の学
びにつなげることができる



4. まとめ

評価を“成績をつける作業”として捉えるのではなく、“学びを支えるための情報収集と活用”として位置付けることで、授業の質は大きく向上します。

子ども一人一人の学びを丁寧に見取り、その姿を次の指導へ生かしていくことを日々の授業づくりで意識してみましょう。

